

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

| | | |
|--|---|--|
| <h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p> | <h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> | <h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p> |
|--|---|--|

「豊かな心をはぐくむ教育の推進」について、教師はどの項目においても③と④を合わせると90%ほどあり、特に「一人一人の児童生徒の尊重」では100%となっている。保護者についてもすべての項目で90%を超えている。また、児童の「一人一人の尊重」では、④の値が保護者や教職員より10%以上高いが、③と④を合わせると教職員より10%低い。経年変化でも、差異は見られないが教職員に比べ、保護者や児童の値は10%ほど低い。今後も児童を見つめる時間での共通理解や実践、教育相談、日々のかかわりを通して、児童が成就感や見守られ感を実感できる取り組みを行い、保護者へも発信していきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

| | | |
|---|--|---|
| <h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> | <h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> | <h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p> |
|---|--|---|

「確かな学力を育む教育の推進」について、④を見るとすべてで教職員と保護者・児童で差異が見られる。「意欲的な学習態度」と「ICT活用」では、ともに30%以上の開きがある。また、「ICTの活用」は、④を見ると教職員は児童より40ポイントも低い。「授業力向上」では、児童と比較すると③と④で12ポイント違いがある。このことから、児童が「わかる」「楽しい」と感じる授業づくりに個人差があることがわかる。「ICT活用」では、一人一台のタブレット配布により活用する機会は増えたが、使いこなすという点で教職員に個人差がある。今後は、個に応じた指導の在り方や工夫、タブレットのスキルアップのための研修を推進していきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

この項目に関しては、経年変化を見ても差異や変化は小さい。しかし、他の項目に比べ④の割合が少ない。今後は、食育も含め健康づくりについて啓発していく。

| | | |
|---|--|--|
| <h3>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p> | <h3>②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> | <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> |
|---|--|--|

「相談支援体制や特別支援教育の推進」については、「いじめや問題への対応」の項目で④の割合が教職員に比べ保護者は12ポイント低く、保護者の②の割合は7ポイント高い。「特別支援教育の推進」の項目では、③と④の割合が90%以上である。しかし、保護者には、①と②の割合が7%ある。このことから、学校での諸問題には対応しているが、すべてに対応しているわけではないことがわかる。今後は、全職員で児童の支援を行うため共通理解や実践を行い、きめ細やかな指導を行っていく。また、教育相談の充実やカウンセリング研修等に尽力し、児童や保護者に寄り添った支援に力を入れていきたい。

| | |
|--|---|
| <h3>①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p> | <h3>②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p> |
|--|---|

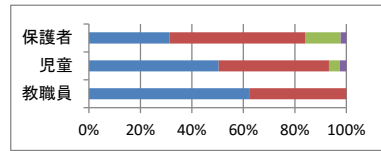
「安全と事故防止」では、④の割合が教職員と保護者は40%弱である。一方、児童は50%以上と安全を意識した生活が送れている。今後も、交通安全教育や防災教育を通して危機意識を持たせる指導を行い、保護者や地域への啓発にも力を入れていきたい。

「施設・設備の安全管理」では、保護者や児童の②に対する割合が高い。今後、定期的な安全点検を確実に実施し、補修や施設設備の整備に力を入れていきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

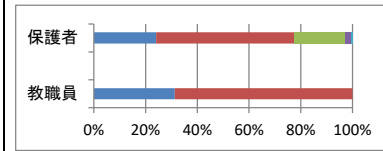
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

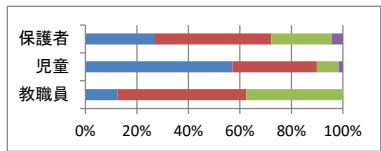


「家庭・地域との連携強化」については、教職員が④と③で100%であるのに対し、保護者は④と③で77%と評価は低く意識の差が大きい。「教育方針・目標の理解」では、④で30ポイントの違いがある。今後は、職員間で学校教育目標や保護者等と、連携方針について共通理解するとともに、学校の取組について一方的にならないように、PTAや児童会とも連携して学校教育活動を進めていきたい。

⑧本校の教育

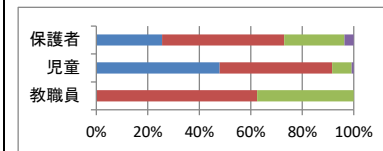
15 1 進んで行う挨拶の励行

子どもたちは、学校や地域で自ら進んであいさつをしていると思いますか。



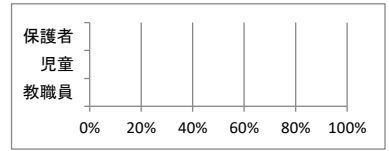
16 2 話を聞く態度について

子どもたちは、学習や生活の中で先生や友達の話を見聞きして、最後まで聞いていますか。



17 3

子どもたちは、学習や生活の中で先生や友達の話を見聞きして、最後まで聞いていますか。



「本校の教育」については、経年で大きな変化は見られない。両方の項目で、児童の頑張りに対して教職員や保護者はそれを実感していない。評価基準を設けたことで、教職員と児童の差はやや縮まった。「話を聞く態度」は、依然として意識の差が大きい。目標を具体化して児童の達成感を実感させるとともに、教職員間で共通理解や共通実践、保護者への啓発につなげ、児童の頑張りや成長を三者で共有するよう努めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

学校評価から考えられる来年度の取組は以下の通りである。

- ・「豊かな心をはぐくむ教育の推進」では、児童理解や道徳の研修等を継続し、児童が成就感や見守られ感、充実感を実感できる取組を行う。更に保護者への発信を工夫する。
- ・「確かな学力を育む教育の推進」では、個に応じた指導の工夫やタブレットのスキルアップ研修等を行い、学び取る授業づくりを行っていく。
- ・「健やかな体を育む教育の推進」では、食育等健康づくりの意識や目的について保護者や地域への発信を工夫する。
- ・「相談支援体制の充実」では、全職員による児童の支援を行うため共通理解や実践を行い、きめ細やかな指導を心がけていく。また、教育相談の充実やカウンセリング研修等に尽力し、児童や保護者に寄り添った支援に力を入れる。
- ・「安全対策の充実」では、交通安全教室や防災教室の実施し意識を持たせる指導を行う。
- ・「最適な学習環境の整備」では、定期的な安全点検を確実にし、修繕等必要な設備については、整備・更新に力を入れる。
- ・「家庭・地域社会との連携強化」では、学校目標や保護者等との連携方針について職員間で共通理解を図り、タブレットを使ってPTAにも主体的にかかわってもらえるような工夫をする。
- ・「本校の教育」では、それぞれについて具現化して児童に達成感を実感させる。また、職員間で共通理解や共通実践、保護者への啓発につなげ児童の頑張りや成長を三者で共有することができるよう雰囲気づくりを行っていく。

学校関係者評価

コロナ禍で臨時休校があったせいか、朝からの子どもたちのあいさつに元気がない。また、こちらから挨拶をしてから返す状況である。帰りは気持ちの良い挨拶をしてくれる。元のように、朝から元気な挨拶ができる子供たちになることを期待する。
 以前は、登校班の6年生が横断歩道を渡る際、掛け声をかけて渡っていた。また渡り終わってから止まってくれた車に対し、お辞儀をしてお礼を言っていた。最近では、高学年の号令を聞かない。また、渡りながらお礼を言うことが気になる。高学年のリーダーとしての成長を期待したい。
 タブレットが一人一台配布されたことで、子供どうしてつながることによって起こる問題が心配である。学校でも指導されていると思うが、今後も注意を払っていただきたい。